

講義コード	1052710002
講義名称	教育心理学 02<秋>
科目英文名	Educational Psychology
開講責任部署	共通教育機構（資格課程）
代表ナンバリングコード	0EDU2400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
小松 佐穂子

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	体験学習(実習、実験)

講義・演習概要	教育心理学の主要テーマである幼児、児童および生徒の心身の発達と学習の過程について、はじめに、発達に関する教育心理学理論や研究成果を概観する。次に、学習に関する理論や研究成果を概観し、各発達段階の心理的特性に対応した主体的学習を支える指導上の基礎理念について、学校教育との関連に基づき論じる。そのうえで、教師に求められる深い見識とそこから導き出される適切な教育的指導および支援の在り方とはどのようなものを考察する。
学習（到達）目標	【テーマ】 幼児・児童・生徒の心身の発達および学習の過程 【授業の到達目標】 (1) 幼児・児童・生徒の心身の発達過程の様相と特徴について、発達概念・発達段階・発達過程等の教育心理学理論やその研究成果を学んで基礎的知識を習得し、定型発達および障害に関する具体的な内容を理解している。 (2) 幼児・児童・生徒の学習過程の様相と特徴について、学習概念・動機づけ・授業形態・学習指導・教育評価等の教育心理学理論やその研究成果を学んで基礎的知識を習得し、各発達段階の心理的特性に対応した主体的学習を支える指導上の基礎理念を理解している。

講義・演習計画

回	内容
第1回	教育心理学の授業を始める前に（授業の概要・課題・到達目標）
第2回	発達の基礎概念
第3回	発達段階理論
第4回	乳幼児期における心身の発達
第5回	児童期・思春期における心身の発達
第6回	青年期における心身の発達
第7回	適応と障害の理解
第8回	学習の基礎理論
第9回	学習と記憶
第10回	学習の動機づけと学習意欲
第11回	授業形態と学習指導
第12回	学級集団の理解
第13回	教育評価の方法
第14回	教室の内外での「主体的・対話的で深い学び」
第15回	まとめ(幼児・児童・生徒の心身発達の過程およびその特性に応じた学習指導の在り方)

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	80%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	①授業ごとにその内容に関するコメントの提出を求め(M-Portを通じウェブ提出)、主体的・積極的な授業への参加の程度を評価する(20%)。 ②加えて、学期の中間点でレポート課題を指示し、M-Portを通じファイル提出を求める(40%)。 ③および、学期末にレポート課題を指示し、M-Portを通じファイル提出を求める(40%)。 ④それらの結果に基づき、修得した知識および論理的な思考力・表現力について総合的に評価を行う。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	スライド（パワーポイント）、インターネット、印刷物などを通じて授業に必要な資料を提供する。					

参考文献	・鎌原雅彦・竹綱誠一郎（著） 『やさしい教育心理学』（第5版） 有斐閣 ・子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司（著） 『教育心理学』（第3版） 有斐閣 ・多鹿秀継（著） 『教育心理学（第2版）一より充実した学びのために』 サイエンス社 ・文部科学省 『中学校学習指導要領』（2017年 3 月告示） ・文部科学省 『高等学校学習指導要領』（2018年 3 月告示）
事前および事後学習の指示	・授業情報（授業課題、レポート課題など）は、M-Port を通じて提供する。授業の前後にそれらの情報を確認し、課題提出および予習・復習・発展学習のために役立てること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
その他備考（担当教員用）	・この授業は、教職課程の必修科目の一つとして開講されている。教員養成に特化された専門的なテーマが扱われ到達目標も高く設定されているため、日常的な学習努力とその積み重ねを必要とする。安易な気持ちで履修登録を行わないよう留意すること。 ・課外活動として、スクールサポーター、学校ボランティアなどがある。教育現場でのさまざまな体験を通して、授業で修得した知識を実践的に確認することができるので、機会を見つければ積極的に参加してほしい。
キーワード	発達理論、発達段階、発達過程、学習理論、学習過程、学習指導、教育評価

講義コード	1116230001
講義名称	経営学B 01<秋>
科目英文名	Business Management B
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	BUSA1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
齋藤 巡友

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト 宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--

講義・演習概要	経営学とは、企業経営に係る現象を解き明かすための学問である。経営学が生み出した知識や理論は、企業経営に直接的に関与する人にとって不可欠だけでなく、企業と個人の関わりが強い現代においては殆ど全ての人にとって有用なものとなるであろう。本講義では、経営学を初めて学ぶ人を主な対象として、全体像がつかめるように経営学における重要な概念や理論を説明していく。その際、適宜事例をとりあげて説明することによって、それらの概念や理論が現実の企業経営を読み解くうえでどのように利用できるのかを実感してもらう。
学習（到達）目標	本講義の学習目標は以下の通りである。 1. 経営学がどのような学問であるかを理解する 2. 経営学の基礎的な知識・概念を自分の言葉で説明できるようになる。 3. 新聞・雑誌で報道される企業経営に関するニュースを経営学の理論を用いて自分なりに解釈できるようになる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：授業内容や授業方針、成績評価について
第2回	マーケティング1：マーケティング・ミックス
第3回	マーケティング2：消費者行動
第4回	マーケティング3：セグメンテーション
第5回	人的資源管理1：人的資源の活用（人材の獲得、育成）
第6回	人的資源管理2：人的資源の活用（人材の評価、処遇）
第7回	生産管理1：テイラーの科学的管理法
第8回	生産管理2：フォード・システム、トヨタ生産方式
第9回	財務管理1：財務諸表からわかる企業の実態
第10回	財務管理2：資金の時間的価値、投資の評価
第11回	財務管理3：資金の調達、利益の還元
第12回	企業の国際化
第13回	コーポレート・ガバナンス1：エージェンシー問題
第14回	コーポレート・ガバナンス2：コーポレート・ガバナンスのメカニズム
第15回	試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	70%
レポート	
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	①到達目標に対応する試験を期末に実施する。試験では、経営学の基礎的な知識や概念の理解度を確認するための問題を短答式・記述式を組み合わせた形式で出題する。成績評価における点数配分は70％ ②授業内容の理解度を確認するための小課題・小テストを授業期間中に複数回出題する。点数配分は30％ ※なお、講義に対して積極的に参加（講義中に発言するなど）している学生には別途加点する。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	東北大学経営学グループ	ケースに学ぶ経営学（第3版）	学生独自購入	978-4-641-18448-0	有斐閣	

参考文献	適宜指示する。
事前および事後学習の指示	事前学習としてテキストの該当箇所を読んでくること（該当箇所は講義時に指定する）。事後学習においては、講義で扱った概念や理論の復習を行うとともに、それらの概念や理論を用いて解釈することができる事例を自分で探してみること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
その他備考（担当教員用）	第1回の授業時に受講するうえで重要な情報（授業運営の方針、成績評価等）を説明するため、初回授業への参加を本講義の履修の前提とする。やむを得ない事情により出席できない場合や遅刻する場合は必ず事前に担当教員に連絡すること。 ※第1回目の授業に無断で欠席または遅刻した場合、本講義の履修を認めない可能性もある。 本講義は経営学A01の講義内容の後半部分に相当するものである。担当教員が異なるクラス（講義名称の末尾の数字が異なる）の「経営学A」とは内容に連続性がない場合があるので、履修の際は十分に注意すること。
キーワード	マーケティング論、人的資源管理論、生産管理論、財務管理論、コーポレート・ガバナンス、国際経営論
備考(管理者用)	（旧：経営学）02～19生読替

講義コード	1116530002
講義名称	心理学B 02<秋>
科目英文名	Psychology B
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	0PSY2400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
岡崎 満希子

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	この授業では、「現代の心を取りまく課題と心理的支援」について概説する。 教育や臨床の場面では、さまざまな心の問題に対処するため、心理学理論を応用して研究開発された「心理的支援」に関する理論と技法が利用されている。現代の心の問題と心理的支援の実際について、「現代の心を取りまく課題」「日常生活と心の問題」「心理学のアセスメント」「カウンセリングと心理療法」の観点から基礎的知見と研究成果を概観し、現状と課題および展望について考察する。
学習（到達）目標	・現代の心を取りまく課題と心理的支援の実際について理解している。 ・日常生活と心の健康との関係を理解している。 ・心理学理論と心理的支援の技法を応用して、さまざまな心の問題を探究し適切な対応策を考えることができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：現代の心の問題と心理的支援
第2回	現代の心を取りまく課題①：脳と心
第3回	現代の心を取りまく課題②：アタッチメントの形成とその障害
第4回	現代の心を取りまく課題③：発達障害
第5回	現代の心を取りまく課題④：発達障害児への教育的支援
第6回	現代の心を取りまく課題⑤：児童虐待問題とその対策
第7回	日常生活と心の問題①：ストレスとメンタルヘルス
第8回	日常生活と心の問題②：心理病理と精神疾患
第9回	心理学のアセスメント①：アセスメントの基本的考え方
第10回	心理学のアセスメント②：アセスメントの実際
第11回	カウンセリングと心理療法①：カウンセリングの理論と技法
第12回	カウンセリングと心理療法②：クライエント中心療法と精神分析学
第13回	カウンセリングと心理療法③：行動療法と認知行動療法
第14回	心理的支援の課題と展望
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	①授業内容に関する考えや感想を書いて提出する。提出のタイミングと方法はその都度指示する。 ②学期末に期末試験を実施する。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.						m-portへの授業資料（ppt）の掲示、 その他インターネット、DVD、印刷物 等による資料提供

参考文献	・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行（著）『はじめて出会う心理学（第3版）』有斐閣アルマ ・その他、授業内で示す。
事前および事後学習の指示	・授業内で示すテーマについて、次回までに予習をしておく。 ・授業内容において関心を持った領域やテーマに関して、授業資料で示した参考文献等を通じて理解を深める。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	脳と心、アタッチメント、発達障害とその支援、児童虐待、心の問題、心理学的アセスメント、心理療法
備考(管理者用)	（旧：心理学）02～19生読替☆SW・SD生は履修不可

講義コード	1480240001
講義名称	憲法B 01<秋>
科目英文名	Constitutional Law B
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	0LAW1010
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
森口 佳樹

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	憲法の基本的内容について解説する。憲法規定の内容を理解したうえで、それをめぐる学説・判例について紹介・検討することとする。憲法Bでは、統治機構を中心に講義する。
学習（到達）目標	憲法規定について、自らが主体的に説明できる能力を身につけてもらうことを目標とする。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	社会権
第3回	参政権
第4回	国務請求権
第5回	国会
第6回	内閣
第7回	裁判所
第8回	司法権をめぐる判例
第9回	違憲立法審査権
第10回	財政
第11回	地方自治制度
第12回	国民主権
第13回	天皇
第14回	平和主義
第15回	統治機構のまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	10%
レポート	90%

その他	
-----	--

成績評価の方法 (コメント)	受講生数によるが、基本的には試験に代わる単位認定レポートを主たる評価の対象とする。補助的に数回小テストを行い、補充的な成績評価の対象とする。 単位認定レポートは事例式の問題となり、学説・判例の理解を前提として課題に対する考え方を検討する問題となる。成績報告期限との関係で短期間の提出を求めることもあるので留意されたい。単位認定レポートを提出しなければ単位の認定はできない。
-------------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	森口佳樹他	ワンステップ憲法	大学オンライン販売	978-4-7823-0546-1	嵯峨野書院	

参考文献	別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ 第8版」(有斐閣)
事前および事後学習の指示	講義中に指定する判例については、よく復習しておくこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	(旧：憲法) 02～19生読替

講義コード	1530530000
講義名称	メディア・コミュニケーション論　＜秋＞
科目英文名	Media and Communication Studies
開講責任部署	社会学部　社会学科
代表ナンバリングコード	0SOC1410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
岩田　考

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① シンクタンクでの調査業務の経験もふまえ授業を行う	実務経験のある教員による授業② マスメディアでの業務の経験もふまえ授業を行う
------	----	---	---

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	現在、ソーシャルメディアの普及など私たちを取り巻くメディア環境は大きく変化しています。そのような中で、私たちのコミュニケーションや対人関係のあり方も変容しつつあります。本講義では、現代社会におけるメディア状況を把握し、「メディアを介したコミュニケーション」の特質を、身近なメディア利用などを題材にして社会的に考えます。 講義を聴いていないと単位修得は難しいため、就職活動などで欠席が多くなることが予想される学生は注意して履修してください。また、社会学の基礎知識や社会学への興味関心がまったくないと理解が難しい部分があります。社会学科以外の学生の方は、慎重に履修してください。なお、何らかの配慮を必要とする場合には、講義が開始してからなるべく早い時期に相談するようにしてください。
学習（到達）目標	メディアを介したコミュニケーションに関する社会的な理解を深めること。また、そのような理解に基づいて、メディアや、コミュニケーション、対人関係に関わる身近な社会現象を社会的な観点から考察できるようになることを目指します。なお、講義でとりあげる社会現象や映像資料によって講義の順序などを変更する場合があります。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション：メディアとは何か
第2回	友人関係とメディア（1）多くの人とつながっているのになぜ孤独なのか？
第3回	友人関係とメディア（2）映像から考える友人関係
第4回	友人関係とメディア（3）友人関係とメディア利用
第5回	友人関係とメディア（4）友人関係の変容とゆくえ
第6回	恋愛とメディア（1）「恋愛離れ」は本当か？
第7回	恋愛とメディア（2）恋愛とメディア利用：マッチングアプリは「恋愛離れ」を防ぐことができるのか？
第8回	恋愛とメディア（3）恋愛のゆくえ：親密性の変容
第9回	マスメディアの影響とその変容（1）：マスメディアに人はどの程度影響を受けるのか？
第10回	マスメディアの影響とその変容（2）：マスメディアの効果
第11回	マスメディアの影響とその変容（3）：メディアと社会の関係性のとらえ方
第12回	メディアの変容と公共性（1）インターネットは社会を分断するのか？
第13回	メディアの変容と公共性（2）社会関係資本論からみたメディアの変容
第14回	メディアの変容と公共性（3）インターネット利用と排外主義
第15回	試験と解説

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	0%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	①論述型の試験を行います(60%)。 ※ただし、履修人数や、配当教室、授業進度によって、試験をレポートに変更する場合があります。 ②その他は、各領域終了後に行う小テストおよび授業内容に関する課題（感想）（計40%）
---------------	---

参考文献	橋元良明編2008『メディア・コミュニケーション学』大修館書店 松田美佐ほか編2014『ケータイの2000年代: 成熟するモバイル社会』東京大学出版会 竹内郁郎・橋元良明・児島和人2005『新版 メディア・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ』北樹出版 辻大介編2021『ネット社会と民主主義』有斐閣 辻大介・是永論・関谷直也2014『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣 辻泉・南田勝也・土橋臣吾2018『メディア社会論』有斐閣 吉見俊哉編2012『メディア文化論 -メディアを学ぶ人のための15話 改訂版』有斐閣 ※その他の参考文献は講義中に紹介します。
事前および事後学習の指示	講義は1回ごとに完結した内容になっていますが、各回は相互に関連しています。準備学習として、配布したプリントで次回講義までに復習をしてください。また、事後学習として、講義中に紹介する参考文献等を読み理解を深めてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	社会学、情報化、メディア、コミュニケーション、友人関係、恋愛、マスメディア、インターネット
備考(管理者用)	(旧：社会心理学) 02～18SS・17～18SW・02～07L生読替

講義コード	1560450000
講義名称	地域研究ⅠB　＜秋＞
科目英文名	Area StudyⅠB
開講責任部署	法学部　法律学科
代表ナンバリングコード	POLS2450
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
的場　かおり

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート ディスカッション(話し合い) 協同・協調学習(グループ・ワーク、チームワーク、ペアワーク)
---------------	---

講義・演習概要	講義では、国際社会に絶大な影響力をもち、日本とも密接な関係にある「アメリカ合衆国」の実相に焦点を当てます。国家の基本構造（立法・行政・司法）にはじまり、現在のアメリカ社会を読み解くうえで不可欠なトピックを取り上げます。「分断」、「自国ファースト」といったワードで説明されるアメリカですが、これらのワードはいまや世界各地で散見されるようになってきました。国際社会および国際関係の「今」を、アメリカに着目しながら解明します。
学習（到達）目標	※本講義は、「地域研究A」を前提とする内容も多いため、「地域研究A」の受講を終えていることが望ましいです。 ①「世界の市民」として活躍するために必要な国際関係を理解する力が身につきます。 ②世界をリードするアメリカの実態を手掛かりに、錯綜し複雑化する国際社会および国際関係の「今」を読み解く力が身につきます。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス（講義の進め方・成績評価・講義の目的）
第2回	合衆国憲法
第3回	連邦議会
第4回	大統領①
第5回	大統領②
第6回	連邦裁判所
第7回	保守とリベラル
第8回	宗教
第9回	人種と移民
第10回	マイノリティとアファーマティブ・アクション
第11回	ジェンダー／セクシュアリティ
第12回	生命倫理と自己決定権
第13回	社会福祉と自助自立
第14回	軍隊と戦争
第15回	試験とまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	90%
レポート	
その他	10%

成績評価の方法（コメント）	①試験90％：最終試験の成績を評価します。 ②その他10％：講義への貢献（講義内での発言、コメントシートの提出など）を評価します。
---------------	--

参考文献	・岡山裕・前嶋和弘著『アメリカ政治〔第3版〕』（有斐閣、2023年） ・河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康編著『現代アメリカ政治経済入門』（ミネルヴァ書房、2021年） ・古矢旬『グローバル時代のアメリカー冷戦時代から21世紀』（岩波書店、2020年）
事前および事後学習の指示	◆事前学習 ・配信されたレジュメおよび資料にしたがい、指示された事前学習に取り組む。 ◆事後学習 ・解説に用いられたスライド資料を確認しながら、講義内容をリフレクションする。 ・参考文献などを用いて、自分の関心を掘り下げるとともに、自分の意見をまとめる。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
キーワード	大統領、共和党、民主党、移民政策、中絶論争、自助自立、志願制
備考(管理者用)	(旧：地域研究Ⅰ) 02～19E・SS・SW・B・L・J生読替

講義コード	1A10110000
講義名称	世界の市民-戦争と正義-日本を巡る国際法上の諸問題　＜秋＞　※遠隔授業（同時双方向型）
科目英文名	World　Citizen-War and Justice: International Law Issues on Japan
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	WDCZ1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
松村　昌廣

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。
	その他
	なし

講義・演習概要	世界市民になるには、世界情勢に対する深い理解とともに、道徳的な判断力も必要です。とりわけ、多大な人命が犠牲になり、甚大な物理的破壊をともなう戦争と正義の問題は重要です。実際、第二次世界大戦・大東亜戦争・太平洋戦争（立場により、呼称が異なる）の敗戦国であった日本はドイツやイタリアとともに「侵略国」と位置付けられ、国際的な非難にさらされてきた一方、そうした位置付けを巡って、わが国の国内外でも賛否が激しく議論されてきました。そこで、本講義では、こうした議論を行う際の「始まり」であり、往々にして「終わり」である国際法上確定した事実などを詳しく解説します。
学習（到達）目標	戦争は始まりから終わりまで国際法に従って行われます。そうしなければ、国際法に違反することとなり、国家やその軍隊、場合によっては、個人の政治指導者や軍人は責任を負わねばなりません。国際法上、戦争はいつ、どのように始まり、終わるのでしょうか。また、戦争中は何が許され、何が許されないのでしょうか。本講義では、日本のケースに焦点を絞って、こうした論点を具体的に考えていきます。学生諸君の中には高校の世界史や日本史の授業で近現代史に関する知識を十分身につけていない者も散見されますが、こうした学生は本講義をとることによって、基本的な知識を習得するきっかけとなるでしょう。また、本講義の内容を十分習得すれば、わが国の戦争と正義の問題に関する論争をより深く理解し、自分なりの意見を持つことが可能になるでしょう。

講義・演習計画

回	内容
第1回	正義と戦争　－　国際法の観点
第2回	日米開戦
第3回	原爆投下・空襲
第4回	「無条件降伏」と占領（１）
第5回	「無条件降伏」と占領（２）
第6回	東京裁判
第7回	サンフランシスコ講和条約
第8回	台湾（１）
第9回	台湾（２）
第10回	千島列島・北方領土（１）
第11回	千島列島・北方領土（２）
第12回	南樺太（南サハリン）
第13回	竹島
第14回	尖閣列島
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

成績評価の方法（コメント）	講師が設定した問題と手順で、受講生に講義で扱った内容を基に持ち帰りのレポート試験（3000字～4000字）の作成・提出を求めます。十分な時間（恐らく週末を含め7～10日以上）の期間を設定し、受講生が自分でとった講義ノートその他資料を見ながら、じっくり考えて作成できるようにします。
---------------	--

参考文献	・色摩力男『日本人はなぜ終戦の日付をまちがえたのか』黙出版、2000年。 ・芹田健太郎『日本の領土』中公文庫、2010年。 ・各自必ず、インターネットから関連の条約等をダウンロードして、ファイルの形で自分の「条約集」を作ってください。
事前および事後学習の指示	講義の進度に合わせて、参考文献に挙げた書籍を読んでください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：世界市民-戦争と正義-日本を巡る国際法上の諸問題）02～19生読替☆遠隔授業（同時双方向型）